HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ジミー・リャオ作『月亮忘記了』を読む
Author(s)	山田, 千尋
Citation	連環画研究, 7, 2-16
Issue Date	2018-03-10
DOI	https://doi.org/10.14943/2115.98458
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98458
Type	departmental bulletin paper
File Information	renkanga_7_2-16.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『連環画研究』第７号　2018 年 3 月

ジミー・リャオ作『月亮忘記了』を読む

山田千尋

はじめに

ジミー・リャオという絵本作家をご存知だろうか。1998 年のデビュー以来 2017 年までに 60 冊もの作品を生み出している台湾在住の作家である。中国文化圏ではもっとも著名な絵本作家の一人だ。中国での知名度はとても高く、2000 年以降「ジミー現象」と呼ばれるブームが起き、研究者たちの関心を集めている。日本では、処女作『森林裡的秘密』[1]（邦題：森の中の秘密[2]）他 16 冊が翻訳出版されている。絵本以外では、金城武主演の 2003 年の映画『ターンレフト・ターンライト』[3]や、2017 年東京など一部地域で公開された映画『星空』[4]がある。本稿では初期の作品である『月亮忘記了』を扱うが、まず絵本を読むことにはどのような意義があるだろうか。絵本は子どもを対象として作られることが多く、物語の展開に一喜一憂したり、主人公に感情移入したりして読むには、大人向きとは言えない。幅広い読者に支持される作品はごく一部だろう。ただ、表現手法という点では、絵本はとても刺激に満ちている。絵本は、基本的には絵と文という二つの表現形式によって作られる。絵と文とが、バイオリンと鍵盤楽器のためのソナタのように、主旋律を奪いあい、時に調和し、時に不調和をおこしながら、多彩なバリエーションを繰り広げていく。また、紙を細工して動きや立体感を表現するものや、紙に凹凸や穴を施したり異素材を貼ったりして触感や立体感を出すもの、おもちゃに近いものでは、電子音が鳴ったりライトが点灯したりといったしかけなど、多様な手法が絵本表現を生み出している。絵本の表現は、言語や形式を越えて、芸術家たちの手によって映画やアニメーション、絵画などの中に現れることもある。表現手法に着目し、そこに革新性や異文化受容の跡を発見することは、子どもが絵本を読むことの意義とは違う意義があると言えるのではないだろうか。

ジミー作品の特徴は、細やかで豊かな色彩の絵と詩情あふれる文が挙げられる。愛らしい画風や絵本という出版形態から、読者を子どもに限定しているような印象を受けるが、内容はむしろ大人向けだ[5]。絵本は上述のように絵と文により多層的な表現をするメディアだが、ジミー作品は子どもに語りかけるような表現を使って大人にむけて描くというスタンスで作られているから、さらに多層的な表現になる。本稿ではジミーの作品の中でも特に複雑な表現に満ちた『月亮忘記了』[6]（邦題：With My Little Moon 君といたとき、いないとき[7]）という作品を、その表現手法に着目して読んでいきたいと思う。

ジミー・リャオについて

写真１　ジミー・リャオ氏

ジミー・リャオ（写真１　『故事團團轉』[8]より）は、本名・廖福彬（リャオフービン）、ペンネームは「幾米（ジミー）」である[9]。海外ではペンネームの「幾米（ジミー）」と姓の「廖（リャオ）」を並べて「ジミー・リャオ（Jimmy Liao）」と表記されることが多い。1958 年生まれ、台湾宜蘭県出身の男性である。中国文化大学美術系（美術学部）卒業後、12 年間広告会社に勤務し、新聞や雑誌向けのイラストを担当していた。1995 年に白血病を患い、3 年間の自宅療養を経て 1998 年に創作活動を開始する。ちょうど 40 歳の年であり、家庭もあったが、大病を患ったことが創作に対する意識を大きく変えたと本人はいう。妻と娘がおり、愛猫家でもある。妻は、中国語繁体字版ハリー・ポッターシリーズ[10]の翻訳者として有名な彭倩文氏である。この妻とのなれそめが、ジミーの代表作『向左走・向右走』[11]（邦題：君のいる場所[12]）を生み出した。近年はインスタレーション作品を各地で発表しており、絵本のファンたちの巡礼スポットとなっているようだ[13]。筆者も 2015 年に台北に行き、『月亮忘記了』をモチーフにした作品『月亮公車』[14]（ムーンバス）を見てきた。インスタレーションはどれも今までに出版された絵本作品の題材を公共の場に設置するように構成しなおしたものであり、やはりメインの表現手段は絵本であるといえよう。

『月亮忘記了』について（出版状況とあらすじ）

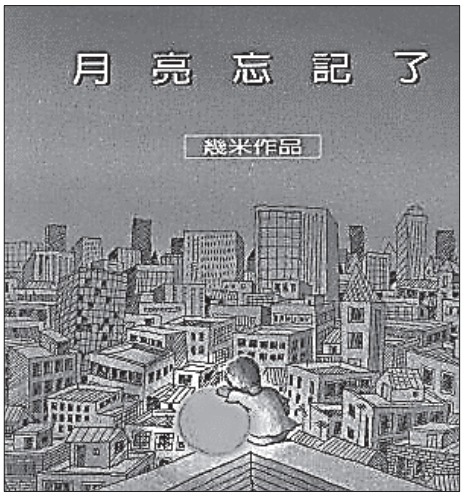

図１　格林文化（平装）版表紙

『月亮忘記了』（図 1）は 1999 年に格林文化から出版され、通算 5 作目の作品となる。英語、韓国語、フランス語、イタリア語、ポーランド語、スペイン語、タイ語版があり、日本語では 2001 年（宝迫典子訳、小学館）に、中国語簡体字版は 2002 年（生活・読書・新知　三聯書店）に出版された。

少し長くなるが、この作品のあらすじを紹介したいと思う。

表紙を開くと見返しの紙をはさんで中表紙

（図 2）がある。青い扉はよく見ると下から明るい光が漏れている。扉を開くようにページをめくると、あらわれるのは暗い夜空だ（図 3）。空には白々しい月、向かい合うようにさえない男性の姿がある。

次のページで、月と男性が何の説明もなく転落する。そして、献辞と書誌情報と本のタイトルのページになり、背景に描かれた割れた植木鉢と落ちたスリッパが不吉な印象を与える（図 4）。献辞には「淑静、周逸、周延＆天国の周氏に捧げる[15]」とある。ここまでの 5 ページは、まるで映画の予告編のように断片的だ。

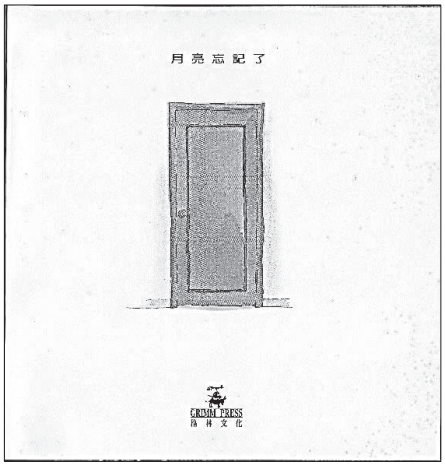

図 2　中表紙 p. 1

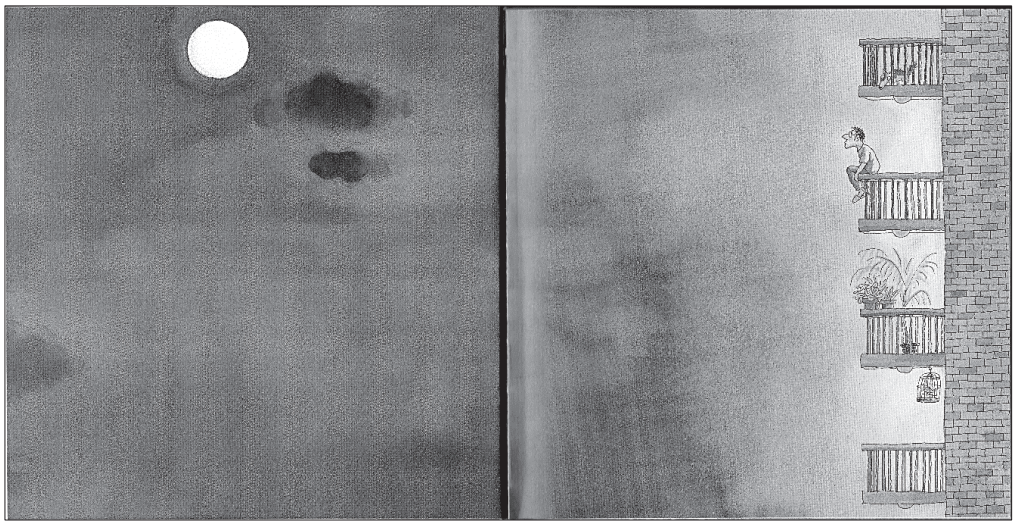

図 3　月と向かい合う男性　pp. 2-3

二度目のタイトルページの後、本文がはじまる。書き出しは「見えていたものが、見えなくなった。夏風がそよそよと吹いて、たちまち消えてゆき、覚えていたことも、忘れてしまった。[16]」という文で、絵はぼんやりとフォーカスがあっていない。あとで詳しくふれるが、「見えていたものが、見えなくなった」という言葉は、この本のテーマを提示した部分である。作者はこの作品に友人の死が大きく関わっていると述べている。子どもの本では「死んだ」などの直接的な表現を避

図 4　2 度目のタイトル p. 5

けて、「お空へ帰っていきました」というような間接的な言葉で表すことがよくあるが、ここでもかなり遠まわしな表現が使われている。このページはプロローグと本文の間で緩衝材にもなっている。読者は本の最初に青い扉を開いたが、ここでまたもう一つ隔てられた世界へ入ることになる。作者は二つの隔たりを設け、さらに遠まわしな文を使って、何重にも距離をとって「死」を表現している。あらすじに戻ると、次ページは草原のなかで虫取りをしている少年が、池に落ちた月を拾う場面である。やっと表紙に描かれた主人公らしき少年があらわれた。

少年は月を拾い、自宅で大切に介抱する。空から月がなくなったことで、世の中には異変が生じ、人々のこころは荒んでいく。工場で人工の月が大量生産され、人々は気休めにそれを買い求め、街にはまがい物の月があふれかえる。本物の月は記憶を失くしていたが、少年と過ごすうちに少しずつ元気を取り戻す。

少年と月はいつも一緒に遊ぶようになる。しかし母親は彼らにまったく関心を示さない。母はいつも忙しく、疲れていて、何をして見せてもとくに反応しないのだった。少年は次第に学校生活がうまくいかなくなる。遅刻や居眠りが増え、友人たちは少しずつ離れてゆき、少年はさらに月とだけ過ごすようになってしまう。空から月を失った世の中は様々な異変がおこり、人々は温かいこころを失ってしまったようであった。人工の月はすぐに飽きられてしまい、街のいたるところにうち捨てられていく。少年は自分が本物の月と一緒にいることを、父親に電話で告げるが、父親はただ「母親のいうことをきくように」としか言わなかった。少年は母と二人で生活しているのだ。教師は少年に月と離れるように言ったが、少年は言うことをきかなかった。そのことを教師から聞いた母親は、父親と連絡をとる。父親と電話をしながらただ泣くばかりの母親の姿をみて、少年は月を本来あるべき夜空に帰そうと決意する。決意した少年は動物の着ぐるみに着替え、月とともに夜の街に出発する。この部分については後述するが、少年が着替えることについて表面的には説明がつかない。それゆえにかえって深い印象を残す場面ともいえる。月は忘れていたことを思い出し、本来の大きさに近づいていく。大きくなった月は少年の部屋で一緒に過ごすことができなくなり、少年はショックを受けて涙する。月と少年は窓越しに一緒に遊ぶが、そのとき嵐に見舞われて黒雲に飲み込まれる。嵐の中の危険な状況をなんとか切り抜けて、黒雲の上に広がる明るい夜空へたどり着く。

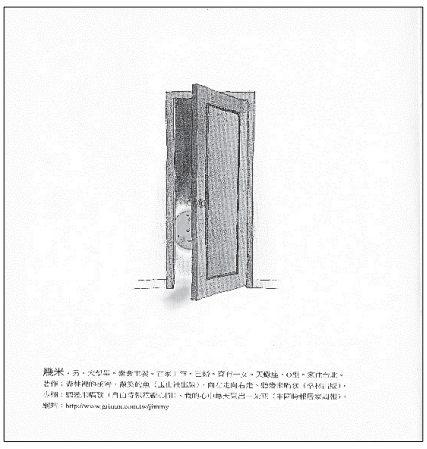

図 5 中表紙と対になる最後のページ

少年と月の物語はここで終わり、エピローグへと続く。プロローグと本文の転換と同様に、焦点の合わないページを経由し、転換後の場面は男性

が落下したマンションの玄関である。落下した男性は頭に包帯を巻いてベッドの上にいる。そして草地に立った男性が月を見あげる場面（図 13）*、月が青い扉から顔をのぞかせる場面（図 5）、と断片が続いてエピローグが終わる。

*後述部分でもふれるため、図はそこで掲載した。

作品についての作者の言葉

『月亮忘記了』という作品について、作者自身の言葉をいくつか紹介させて頂きたい。まず 2015 年に雑誌に掲載されたインタビューの中で、次のように話している。

> 『月亮忘記了』は一人の友人が北京で突然死んでしまって、生きている人間がどうしたらいいかわからないことを描きました。私はどうやってこの友人の奥さんを慰めていいかわからないし、どうやって彼の子どもを慰めたらいいのかも、この子に父親が突然いなくなったことをどうやって伝えるのかもわかりませんでした。（中略）それ（月）は象徴で、死んでしまった人はまるで月のようです。彼は果たして存在しているのかいないのか？　彼が存在していることといないことには、結局何の関係があるのか。私はこの本を描いて友人の妻と子どもを慰め、このような見えるものと見えないものの変化を表現したのです。[17]

ここで作者は月が象徴であることと、死んでしまった友人の家族にむけて作品を描いたことを述べている。ほぼ同じ内容が、ジミーによる自作解説本『故事的開始』の中にも見つけられる。

> 私は月と少年の相思相愛の簡単な物語を描こうと決めました。しかし、当時身近におきた二つの出来事が、知らず知らずのうちにこの物語をまた複雑にしました。（中略）以前、広告会社に勤めていたときのある同僚が、ある日の昼休みに何も言わずにオフィスの屋上から飛び降りました。妻と小学校にあがったばかりの女の子を残して。またある友人の旦那さんは北京に出張に行って会議に出席し、急に脳溢血でこの世を去りました。誰に何を言う間もなく、二人の男の子が残されました。私は家族の悲しみを伝え聞いて、かえって慰めの電話がかけられず、何を言っていいのかわかりませんでした。特に幼い子どもに対して、どうやって父親を亡くした子を慰めるべきでしょうか。この二つのできごとは私にとても大きな衝撃を与え、進めていた作品を無意識に変えていきました。『月亮忘記了』はそういったわけで全く異なる顔を持ったのです。[18]

ここから、原案としてそもそも月と少年の物語があり、プロローグとエピローグは、あとから付け足されたということがわかる。そして複雑になった物語を一冊の本として構成するにあたって、次のような工夫が凝らされた。

> この本はやはりすこし丁寧に設計しています。例えば、前後のページの対照と呼応です。１ページ目と最後の１ページ、２ページ目と後ろから２ページ目……これらはどれも関連しています。これらのデザインは明白なものではありませんが、読者にうっすらと伝わり、少年と月以外の別の階層の物語を構成しています。──ある男性が落下して脳震盪をおこし、子どもの頃の空白の時期に戻り、彼は月と同じく何かを忘れていたようだけれど、その後またゆっくりと回復していく……[19]

以上のような作家自身の言葉により、作品が作られた背景を少しうかがい知ることができる。特に本の構成に関する言葉はとても示唆に富んでいる。

行きて帰りし物語の類型

どこかへ行き、元の場所に帰って来る物語を児童文学の世界で「行きて帰りし物語」と呼ぶことがある[20]。浦島太郎や、ヘンゼルとグレーテルなど、この類型の物語は枚挙にいとまがない。『月亮忘記了』では、登場人物の男性が無意識の世界に行き、月をもとの状態に戻して、また現実の世界に戻って来る。これも典型的な「行って帰る」ストーリーである。

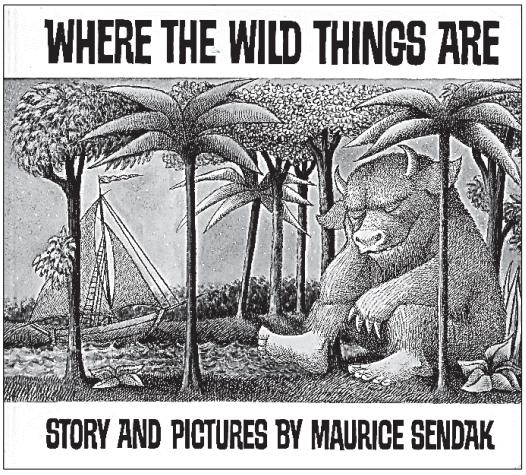

図６　表紙

「行きて帰りし物語」の類型の中で、広く知られている絵本に、モーリス・センダック（Maurice Sendak, 1928－2012）の代表作『かいじゅうたちのいるところ』（原題：*Where the Wild Things Are*, 1963年）[21]（図 6）がある。台湾では『野獸國』というタイトルで 1987 年に漢聲出版から出版されている。すぐれた絵本に与えられるコールデコット賞を受賞し、世界で二千万部以上出版されたというベストセラー作品であり、50 年以上にわたり各国で版を重ね続けるロングセラー作品でもある。絵本や児童文学においてはもちろん、幼児教育や児童教育、心理学の分野においても、よく研究され、言及されている。あらすじを簡単

に紹介すると以下のようである。

主人公の少年マックスは、いたずらばかりして母親に叱られる。「この　かいじゅう！」と怒る母親に「おまえを　たべちゃうぞ」と言ったことで、おしおきとして夕食抜きで自分の部屋に閉じ込められてしまった。暗いマックスの部屋はしだいに森や海が広がっていく。一艘の船があらわれて、1年と3日かけてかいじゅうたちのいるところにたどり着く。かいじゅうたちは恐ろしい形相をしていたが、マックスは彼らを怖がらず、王様となる。一緒に踊って遊び、楽しくすごすもののマックスは家が恋しくなり、また船に乗って自分の部屋へ戻る。部屋にはまだ暖かい夕食のスープが置かれていた。

ストーリーからわかるのは、主人公が自分の部屋からかいじゅうたちのいるところへ旅をして、また戻ってくること。そして主人公の想像の世界では2年以上経過しているはずなのだが、母親が差し入れたスープが冷めないくらいの間の出来事だったということである。絵を追っていくと、画面の余白部分が物語のクライマックスに向けて徐々に少なくなり（マックスとかいじゅうが遊びまわるページでは完全に断ち切りとなる）、また徐々に余白が大きくなっていく。現実の世界（自分の部屋）から想像の世界（かいじゅうたちのいるところ）へ旅をして戻って来るというストーリーをこの余白の表現からも読み取ることができる[22]。この作品が絵と文だけでなく、画面のデザインによっても異世界との行き来を表現していることは、多くの研究者に指摘されている。絵本表現について関心があれば、本の最初の数ページと最後の数ページをシンメトリーに構成したというジミーの言葉にふれたとき、このセンダックの手法を想起するのはごく自然なことと言えよう。

オオカミの着ぐるみについて

『月亮忘記了』が『かいじゅうたちのいるところ』を想起させる点がもうひとつある。それは、主人公の少年の衣装である（図7）。『月亮忘記了』の中で、主人公の少年が途中で着替えた、動物の着ぐるみのことだ。この衣装について、作者は前掲の自作解説本のなかで「私は少年に黒い忍びの服を着せた。[23]」とだけ述べている。耳やしっぽがついている着ぐるみであることには、特にふれていない。狼の姿に変身することは月と非常に結びつきの強いモチーフである。月夜に狼に変身する「狼男」は広く知られる

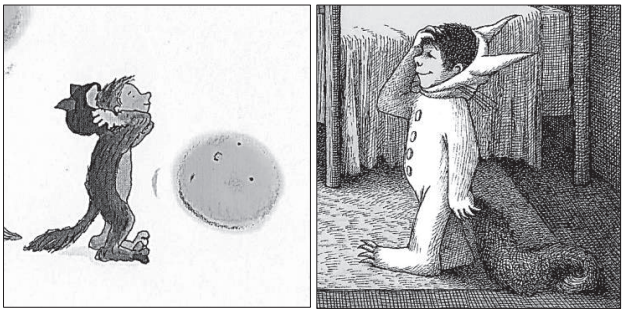

図7　上：『月亮忘記了』p. 80
下：『かいじゅうたちのいるところ』p. 44

怪物であり、狼男のイメージを重ねてこの着ぐるみを描いたと考えることもできる。しかし『かいじゅうたちのいるところ』を意識して読む時、この衣装は少し別の意味をもつ。

『かいじゅうたちのいるところ』のマックスは、狼の着ぐるみをきた少年である。性格はやんちゃで、母親の対応から、いたずらの常習犯であることがわかる。悪魔のような顔で飼い犬を追い回し、部屋に閉じ込められたあとは困った表情になり、想像の世界でも「かいじゅうに会って驚く」様子や「王様になって得意満面になる」様子、「もうおうちに帰りたいと落ち込む」姿など、行動も表情も自己主張が強く、浮き沈みが激しい。母親がマックスのいたずらを罵るのに「この　けだもの！[24]」という言葉を使ったことや、大騒ぎして自室に戻った後は着ぐるみが脱げかけていることは、この衣装がマックスの強い行動力の表象であることを示唆している。

一方『月亮忘記了』の少年は、表情に乏しく、いつも母親のことを気にかけていて、マックスとは正反対の性格である。その少年が思い切って前向きな行動を始めるときに着ぐるみを着た。この場面には「最も深い闇夜はもうすぐ過ぎる。見てよ、月がでるよ。[25]」という文が続く。少年は、初めて「見てよ（你看）」と呼びかける言葉を使い、表情も強く外に表れるようになる（図 8）。動物の着ぐるみはマックスのような強い自己主張と行動力の表象とは考えられないだろうか。

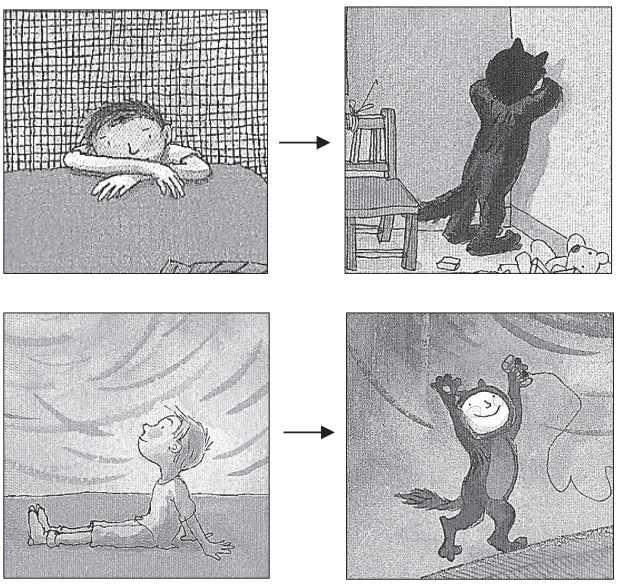

図 8　着ぐるみ着用後の少年の表情の変化
上段「憂い」p. 75 から「嘆き」p. 99 へ
下段「喜び」p. 39 から「歓喜」p. 92 へ

それならば「大きなかいじゅう」は？「月」は？

こうして『かいじゅうたちのいるところ』を補助線として考えてみると、巨大な生物や月も『月亮忘記了』だけを読む時とは異なって見えてくる。

図 9
マックスと遊ぶかいじゅうたち p. 33

センダックは「かいぶつたちは、ユダヤ人の親類のものたちだといえます[26]」と述べている。なにか恐ろしい生き物を登場させようと考えていたとき、どのような動物もうまく当てはまらず、子どもの頃に感じた親戚たちの姿を登場させることを思いついたという[27]。この恐ろしい見た目のかいじゅうたち（図９）は、マックスに一睨みされただけで恭順になり、楽しく一緒に遊び、飽きたから帰ろうとするマックスに「お願い行かないで、食べちゃいたいほどすきなんだ！[28]」と叫ぶ。

ジミーも作品中に巨大な生物をよく登場させる。主役として登場する作品もある[29]が、『月亮忘記了』では、隠れた場所から少年を見つめる姿が描かれるだけだ。文にほぼ現れず、ストーリーに関わらない（図 10）。これについて作者は次のように説明している。

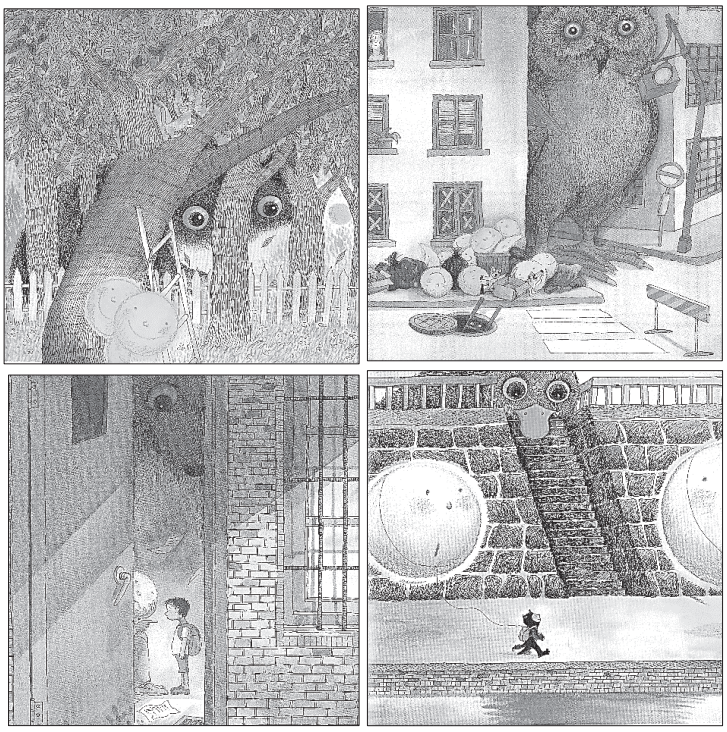

図 10　様々なページに現れる巨大生物
上段左 p. 32、右 p. 69、下段左 p. 74、右 p. 95

> 『月亮忘記了』の中にたくさんの動物を描いたことですが、あれらの動物はあの少年を守っていると思うからです。少年はとても孤独で、とても傷ついていますから。……覗いていることについて言うと、私は人とはこっそり見られていたり、見透かされたりするものだと思います。道を歩いている時、たくさんの目が私たちを見ているのと同じです。[30]

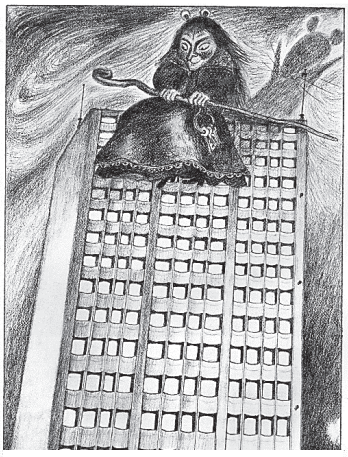

図 11　ねずみばあさん p. 57

つまり、この巨大な生物たちは守ってくれる存在というだけではなく、自分を見透かして脅かす視線恐怖の感覚から生まれたものでもある。センダックが描いた「かいじゅうたち」が、作者を脅かす人間をもとに発想された怪物でありながら、同時に主人公を愛しむ存在でもあるのとよく似ている。このような特徴は『となりのトト

ロ』[31]のトトロやネコバス、『おしいれのぼうけん』[32]のねずみばあさん（図 11）などにも見られる。外見上も、大きな体とぎょろりとした目玉という共通した特徴をもっている。子どもの目にうつる大人の姿が、このような共通性をもって描かれるのはとても面白いと思う。

また、月は『かいじゅうたちのいるところ』の中でとても印象的に描かれている。研究者により意見が分かれるところだが、マックスの気持ちの充足を形で表しているという説がある。部屋に閉じ込められた時は欠けている月が、かいじゅうたちと大騒ぎする場面で満月となり、戻ってきた部屋でも満月のままだからだ[33]（図 12）。

図 12　月の形が時間と関係なく変化している 左から p. 16、p. 32、p. 44

『月亮忘記了』に描かれる月も心の充足を表しているのだろうか。男性と一緒に落下した月（図 3）は、帰ってきた現実では欠けている（図 13）。これを充足の度合いとして読みとれば、すっかり満たされた様子のマックスと好対照をなす、大人の寂しさをあらわすような印象的なラストシーンとなる。作者の言葉では、月は亡くなった友人の象徴であるというから、もう現実にはいない友人を細く欠けた月で表しているのかもしれない。

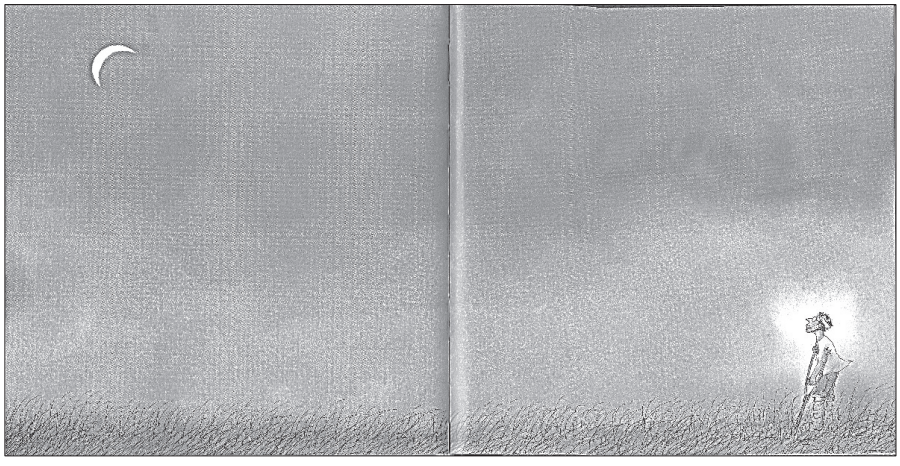

図 13
月と少年の旅が終わり、戻ってきた現実で月を見上げる男性
pp. 116–117

絵本と様々な分野の表現

センダックの作品には様々な作家や作品へのオマージュがちりばめられている。『センダックの絵本論』の訳者あとがきではこのように述べられている。

> センダックの作品には、コールデコットやアーサー・ヒューズ、ウィンザー・マッケイ、ディズニー、そのほかたくさんの人たちの作品を、センダック自身の言を借りれば、「模倣（パスティーシュ）」した部分が少なからずありますが、彼がそれを恐れないのは、そうした先人たちの作品の中に、彼を魅きつけてやまない何かがあり、「模倣」することによってその本質をつかむことが、彼自身の中に眠っているものを探り当てる最適な手段だとわかっているからなのでしょう。（中略）これらはセンダックならではの視点から見た新鮮なアンデルセン論、ディズニー論等々であると同時に、センダックがさまざまな導き手の力をかりてなしとげつつあるたゆみない自己研究の記録でもあり、また、どんどん広がっていくセンダック世界の最新の見取図でもあるからです。[34]

ここで注目したいのは、センダックの作品に影響を与えた人物として文中には絵本作家に限らず、画家、アニメーション監督、童話作家などの名前も挙げられているということだ。センダックが様々な分野の表現を等しく絵本に取り込んでいたことがうかがえる。またそれとは反対に、『マルコヴィッチの穴』等で知られる映画監督のスパイク・ジョーンズが熱烈なセンダックのファンであり、センダックを支持する作品を発表している[35]ように、絵本作家の作品が映画などのほかの分野に影響を与えることもあるだろう。2008 年公開の香港の映画作品『長江 7 号』（邦題：ミラクル 7 号）[36]には、『月亮忘記了』とよく似た構図のシーンをみつけることができる。主人公の父親が建設途中のビルの屋上に座って弁当を食べるシーン（図 14）では、ビルの角に座る後ろ姿や、眼下に広がる

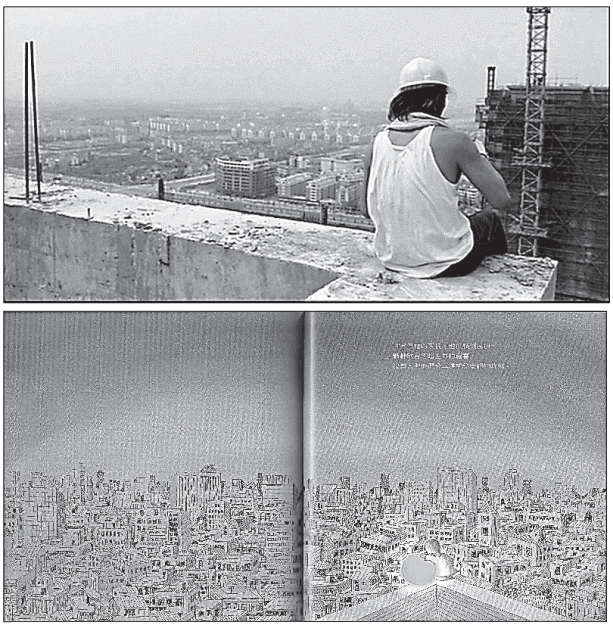

図 14　屋上に座る後ろ姿。下図は pp. 46–47

現代的な街並み、ブルーグレーを基調とした色合いなどが共通している。これは『月亮忘記了』格林文化版の表紙にもなっている場面であり、ジミー・リャオによると、台湾で発生した大停電で街ごと暗闇に包まれた体験をもとに描いたという[37]。また、『長江７号』の主人公が木の下に寝転ぶ場面（図15）も、『月亮忘記了』の少年が木の下に寝転ぶ場面と構図がよく似ている。この場面は、中国の子ども向けアニメ番組「動画城」[38]のオープニングの中にもよく似たカット（図16）が存在する。「動画城」のオープニングは、様々な作品のモチーフをつなぎ合わせて作られているようで、巨大な生物や、階段と扉のイメージなどもでてくる。上記の場面は、芝生や樹木などで画面の大部分が緑色で占められている点や、少年のそばにいるのがいずれも現実には存在しない生物であるところに共通点が見いだされる。

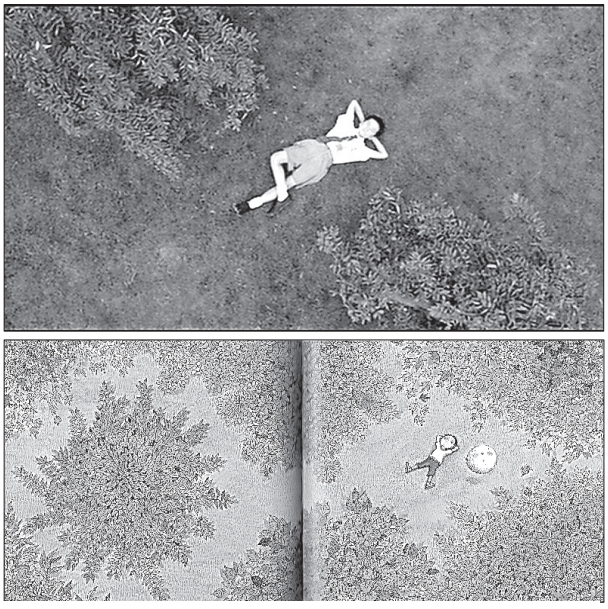

図 15　芝生に寝転ぶ少年。下図は pp. 54–55

図 16　テレビ番組のオープニング

おわりに

本稿ではジミー・リャオの作品『月亮忘記了』の絵本表現に着目し、センダックの作品『かいじゅうたちのいるところ』と関連させて読むことを試みた。センダックが先人たちの様々な表現を「模倣（パスティーシュ）」したように、ジミーはセンダックという存在を「模倣（パスティーシュ）」という手法を含めてまるごと模倣したようにも思える。本稿では力が足りず触れられなかったが、ジミー作品の登場人物は複数の作品にまたがって登場することが多い。少年と月もジミーのほかの作品に登場する。それらの作品も含めて考察することで、また『月亮忘記了』の読み方は変化していくかもしれない。

[1] 幾米作『森林裡的秘密』（大塊文化　2003 年）初版は玉山社より 1998 年に出版された。
[2] ジミー作　高梨いなさ訳『森の中の秘密』（PHP 研究所　2002 年）。
[3] 杜琪峰、韋家輝監督『向左走・向右走』（邦題：ターンレフト・ターンライト）（Warner Bros. Milkyway Image（HK）Ltd.　2003 年公開）。
[4] 林書宇監督『星空』（邦題：同じ）（太秦　2011 年公開）。
[5] 作者は「大人向けの絵本」という類型について「成人繪本」という言葉を使って次のような記述を残している。「出版了兩本書之後，對於創作這件事，漸漸有了信心，有一種想要去做出更多的書，讓更多人分享的喜悅。但是，《森林裡的秘密》和《微笑的魚》在書店裡的定位不清，讓我很想再創作一本書，更為確立「成人繪本」這個類型。（二冊の本を出版した後、創作というこの事について次第に自信や、ある一つのもっと多くの本をだして、より多くの人と喜びを分かち合いたいという思いがわきました。しかし、『森の中の秘密』と『微笑むさかな』は書店内での位置づけが定かではなく、私にもう一冊の本を創作し、よりいっそう「大人向けの絵本」というこの類型を確立したいと思わせました。）」幾米著『故事的開始』（大塊文化　2008 年）p.50。
※引用部分は参照した文献の記述に従って繁体字であった場合は繁体字、簡体字であった場合は簡体字を使用した。これ以下の引用についても同様。
[6] 幾米作『月亮忘記了』（大塊文化　2007 年）初版は格林文化出版社より 1999 年に出版された。
[7] ジミー作『With My Little Moon 君といたとき、いないとき』（小学館　2001 年）。タイトルの「月亮忘記了」の直訳は「月は忘れてしまった」である。「きみといたとき、いないとき」という日本語タイトルは、作品中の重要なテーマである「存在と不存在にどんな関係があるのか」「死んでしまった人はもう存在しないのか」という意味を含んだ意訳であると思われる。
[8] 幾米著『故事團團轉』（大塊文化　2014 年）。写真は中表紙より。2008 年から 2013 年の間に出版されたジミー作品についての解説本。1998 年から 2007 年までの作品について解説した『故事的開始』（大塊文化　2008 年）の続編にあたる。
[9] この項は『故事的開始』及びジミー・リャオ公式サイト「Jimmy S.P.A OFFICIAL SITE」（http://www.jimmyspa.com/　最終訪問日：2018 年 2 月 10 日）を参照してまとめた。
[10] 2000 年から 2007 年にかけて皇冠文化出版社から出版された J.K.ローリング作「ハリー・ポッター」シリーズの翻訳書。第 1 巻から第 4 巻までは彭倩文氏が翻訳を手掛け、5 巻目以降は「皇冠編譯組」によるチームでの翻訳となっている。
[11] 幾米作『向左走・向右走』（大塊文化　2008 年）初版は格林文化より 1999 年に出版された。
[12] ジミー作『君のいる場所』（小学館　2011 年）宝迫典子訳。
[13] 日本でも新潟県で行われた「大地の芸術祭　2015」で作品『Kiss & Goodbye』を見ることができたが、現在は公開していない。この作品は絵本『忘記親一下　Kiss & Goodbye』（邦題：幸せのきっぷ Kiss & Goodbye）と同時に作成されたものである。
[14] 台北市による都市計画「2016 年世界設計之都」の一部として 2014 年に設置された。台北市信義区信義路 5 段 100 号（高層ビル「台北 101」の交差点を挟んで斜め向かい）にある。9 時から 21 時まで一般開放されている。
[15] 原文は次のとおり。「獻給 淑靜、周逸、周延＆天上的周 SIR」『月亮忘記了』p.5。
[16] 原文は次のとおり。「看見的，看不見了。夏風輕輕吹過，在瞬間消失無蹤，記住的，遺忘了。」『月亮忘記了』p.8。
[17] 『台声　2015　No.7』（中華全国台湾聯誼会　2015 年）p.65　※中華全国台湾聯誼会は中国大陸における台湾出身者の同郷会組織。『台声』はこの組織で発行している雑誌。
原文はつぎのとおり。「《月亮忘记了》是在画我一个朋友在北京突然死去，活着的人不晓得如何自处。我不晓得如何安慰这位朋友的太太，不晓得怎样安慰他的小孩，不晓得怎样告诉这个小孩说他爸爸突然就走了。（中略）它是个象征，逝去的人可能像月亮一样，他到底存在不存在？他存在跟他不存在，到底会有什么样的干系。我画这本书来安慰朋友的太太和小孩，并表现这种看得见和

看不见的改变。」

[18] 原文はつぎのとおり。「我决定畫一個月亮跟男孩相親相愛的簡單的故事。但是，當時身邊發生了兩件事，我又不自覺地漸漸把這個故事複雜化。（中略）一位以前廣告公司的同事，有一天午休時，不聲不響地從辦公室的頂樓一躍而下。留下太太和一個剛念小學的女兒。一個好友的先生到北京出差開會，突然腦溢血過世，什麼話都來不及說，留下兩個男孩。我輾轉聽見家屬的哀傷，卻不敢打電話慰問，我不知道該說什麼。尤其是面對小孩，你該如何安慰失去父親的孩子呢？這兩件事帶給我很大的衝擊，不自覺地改變了進行中的創作。《月亮忘記了》因此有了完全不同的面貌。」『故事的開始』p.63。

[19] 原文はつぎのとおり。「這本書還是有一些精心的安排，例如前後頁的對照呼應；第一頁和最後一頁，第二頁和倒數第二頁……都有關聯。這些設計雖不明顯，但應可讓讀者隱約感受到，小男孩和月亮以外的另一層故事架構——一個男人因墜樓腦震盪，回到童年的空白時期，他跟月亮似乎都忘了什麼，然後，又慢慢回復……」『故事的開始』p.68。

[20] 「行きて帰りし物語」は瀬田貞二の著作で使用された言葉。「子どもの喜ぶお話には単純な構造上のパターンがあり、それは「行って帰る」ことである」という同氏の指摘が広く児童文学研究者に使われるようになった。瀬田貞二著『幼い子の文学』（中公新書　1980 年）第 1 章に詳しい。

[21] Maurice Sendak “*Where the Wild Things Are*” (Harper & Row 1963)。 日本では、ウエザヒル翻訳委員会訳『いるいる　おばけがすんでいる』（ウエザヒル出版社、1966 年）と神宮輝夫訳『かいじゅうたちのいるところ』（冨山房　1975 年）の二つの翻訳があるが、本稿では現在も出版されている『かいじゅうたちのいるところ』のタイトルを使用した。

[22] 余白部分の表現についての言及は数多くあるが、斉藤次郎著『行きて帰りし物語——キーワードで解く絵本・児童文学』（日本エディタースクール出版部　2006 年）「もうひとつの世界へ」では画面が縦横何ミリメートルかを一覧表にし（p.32）、詳細な解説を加えている。

[23] 原文はつぎのとおり。「我讓小男孩穿上黑色的夜行衣。」『故事的開始』p.66。
夜行服は盗賊などが夜間に行動するときに着る服を指す。ファンの間では「猫猫服」とよばれたりもするようだ。マックスの衣装については、台湾の翻訳本『野獸國』では「野狼服」と翻訳されている。また江宜芳著『追尋青鳥——莫里斯桑達克作品裡的兒童』（秀威資訊　2006 年）では「狼服」と表記されている。

[24] 原文はつぎのとおり。「WILD THING！」“*Where the Wild Things Are*”p.5。

[25] 原文はつぎのとおり。「但是，最深的黑夜即將過去，你看，月亮出來了。」『月亮忘記了』p.82。

[26] セルマ・G.レインズ著　渡辺茂男訳『センダックの世界《新装版》』（岩波書店　2010 年）p.88。
※旧版第一刷は 1982 年発行。

[27] セルマ・G.レインズによると、センダックはかいじゅうたちのキャラクターを生み出すときのことを次のように語っている。「幼年時代に、ブルックリンの親類のものたちを、どんなにいやがっていたかを思いだしたからでしょう。彼らは、ほとんど日曜日ごとにやってきました。そしてわたしは、つぎの日曜日にまた彼らがやってくることを考えて、1 週間悩んだものです。わたしの母は、彼らのために料理をしました。（中略）親類のものたちときたら、子どもたちとおしゃべりするのが、まぬけかと思われるほど下手でした。わたしがどうしようもなくて、台所のいすにすわっていると、そこへきて、ねこなで声で何かいい、ほっぺたを、ちょいとつねるのです。あるいは、きたない歯と鼻毛ののびた鼻を近づけて、「たべちゃいたいくらいかわいいねえ！　」なんて恐ろしいことをいうのです。わたしの母が、さっさと料理をはじめなければ、彼らは自分たちではじめたでしょうね。ですから、少なくともある次元では、（ワイルドなものたち、つまり）かいぶつたちは、ユダヤ人の親類のものたちだといえますね。」『センダックの世界《新装版》』pp.87-88。

[28] 原文はつぎのとおり。「Oh please don’t go— we’ll eat you up— we love you so！」“*Where the Wild Things Are*”　p.31。

[29] 『月亮忘記了』の 11、12 ページ目に登場する巨大なウサギは『森林裡的秘密』の主人公である。「毛毛兎（もこもこうさぎ：筆者訳）」という名前がついており、ほかのジミー作品にもしばしば描かれる。

[30] 原文はつぎのとおり。「至于《月亮忘记了》中画了很多动物，是因为觉得那些动物是在保护那个男孩，因为男孩非常寂寞，非常忧伤。说到窥视，我是觉得人是被窥视的，被看穿的，就像走在路上，会有很多眼睛在看我们。」『台声　2015　No.7』p.65。

[31] 宮崎駿監督『となりのトトロ』（スタジオジブリ　1988 年公開）。

[32] 古田足日、田畑精一作『おしいれのぼうけん』（童心社　1974 年）。

[33] セルマ・G. レインズによる次のような言及がある。「三日月から満月へという、明らかに不可能な月の動きについて、センダックはこう説明する。「わたしは、満月が好きなんです。友人のトミー・ウンゲラーが、わたしの本は矛盾だらけだといいました。満月が、何の理由もなしに 4 分の 3 に欠けたり、半月になったりするんですからね。でもわたしの本には、月は、グラフィックな理由であらわれるので、天文学的な理由ではないのです――ページにどうしてもあの形が必要なのです。」」『センダックの世界《新装版》』p.93。
マリア・ニコラエヴァ＆キャロル・スコットによる『絵本の力学』（玉川大学出版社　2011 年）では児童文学に見られる錯時法の一つとして紹介されている。月が心理状態を表すものとする考え方では斎藤次郎による次のような指摘がある。「月は時の経過と関係なく、むしろマックスの心理的な抑圧と解放のシンボルとして描かれている、と見るべきだろう。」『行きて帰りし物語――キーワードで解く絵本・児童文学』p.33。

[34] モーリス・センダック『センダックの絵本論』脇明子・島多代訳（岩波書店　1990 年）pp.238-239。

[35] スパイク・ジョーンズ監督による映画『かいじゅうたちのいるところ』（原題：*Where The Wild Thing Are*）（Warner Bros.　2009 年公開）及び、ドキュメンタリー「みんなのしらないセンダック」（原題：*Tell Them Anything You Want: A Portrait of Maurice Sendak*）（2009 年公開）がある。

[36] 周星馳監督『長江 7 号』（邦題：ミラクル 7 号）周星馳、徐嬌主演（星輝海外 2008 年公開）。

[37] 『故事的開始』p.65。

[38] 「動画城」は中国中央テレビで 1994 年 7 月から放送されているテレビ番組。引用した画像は 2002 年からの主題歌「快点告诉你」のアニメーションである。